

## スギのこぶ病に関する研究 (I)

## — 分 布 調 査 —

大分県林業試験場 高橋和博  
堀田隆

## 1. はじめに

最近、大分県日田市、郡の各地において、スギのこぶ病被害がみられ、本病が広範囲にわたって発生していることも予想されることから、今回被害分布調査を実施したので報告する。

日田郡前津江村および中津江村においては、以前より本病の発生がみられ、すでに長野愛人らによって報告されている。なお、今回調査を実施するにあたり、長野氏より当時の調査資料を提供していただいたことに対して厚くお礼申し上げる。

## 2. 病 徴

スギのこぶ病<sup>2,3)</sup>(病原菌: *Nitschkia tuberculifera* KUSANO)は、初め葉脈に肉芽状を呈して発生する。発生後は経時的に発達し、枝では拳大に達する。さらに、こぶはまれに樹幹にも発生し、人頭大の大きさに達する場合もある。なお、発生初期のこぶは、表面平滑な小粒物にすぎないが、肥大するにしたがって、表面に豆状突起を生じる。

激害木になると、こぶが枝に数cm間隔で発生し、その数は数百個にも及んでいる。さらに激害木は、枝葉の繁茂が劣り、クローネが疎開することから、成長も減退するものと思われる。

## 3. 被害分布

昭和52年10月12日~22日にかけて、日田市および日田郡の被害分布調査を実施したので、その結果を図-1に示した。なお、分布調査は道路に近いうっぺい林分について実施した。調査林分205箇所のうち142箇所に被害がみられた。被害区別では、142林分中、激害、中害、微害がそれぞれ13、17、112林分であった。

なお被害区分は、①激害: (×) こぶを多数形成し、成長が衰えているもの。②中害: (△) こぶをかなり形成し、将来成長の衰えが予想されるもの。③微害:

(○) こぶを少数形成し、成長に影響がないものとした。

図-1により被害分布をみると、被害は日田市および日田郡のほぼ全域にわたって発生しており、被害区域面積1,100.0haのうち、被害面積は4,000haに達するものと思われる。昭和34年における被害<sup>1)</sup>(被害区域面積: 3,500ha、被害面積: 1,500ha)と比較して、著しく拡大していることがわかった。

なお、被害は日田盆地周辺の山地部に集中しており、特に谷すじに多くみられた。また前津江村千蔵木および田代地域は被害が多く、激~中害林分が集中しているが、さらに80~100年生林分にも、発生歴の古いこぶがみられたことから、同地域が本病の発生源ではないかと思われる。

## 4. 考 察

今回の被害分布調査によって、スギのこぶ病が、日田市、郡全域にわたって発生していることがわかった。さらに最近の情報として、日田郡に隣接した玖珠郡においても本病の発生がみられたことから、被害は日田市、郡を中心にかなり広範囲にわたって発生しているものと思われる。したがって今後、さらに分布調査を行ってみる必要がある。

最後に、本病については研究報告例も少なく、生態面においても不明点の多く残されているのが現状である。

したがって、今後研究を進めるにあたって、本病の生態を究明するとともに、発生環境、成長に及ぼす影響およびスギ品種の耐病性等についても検討する必要があるものと思われる。

## 引 用 文 献

- (1) 長野愛人、樋口勝人: 日林九支講, 15, 61~62, 1959
- (2) 伊藤一雄: 図説樹病診断法, 126~127, 1968
- (3) 伊藤一雄: 樹病学大系(Ⅱ), 189~190, 1973

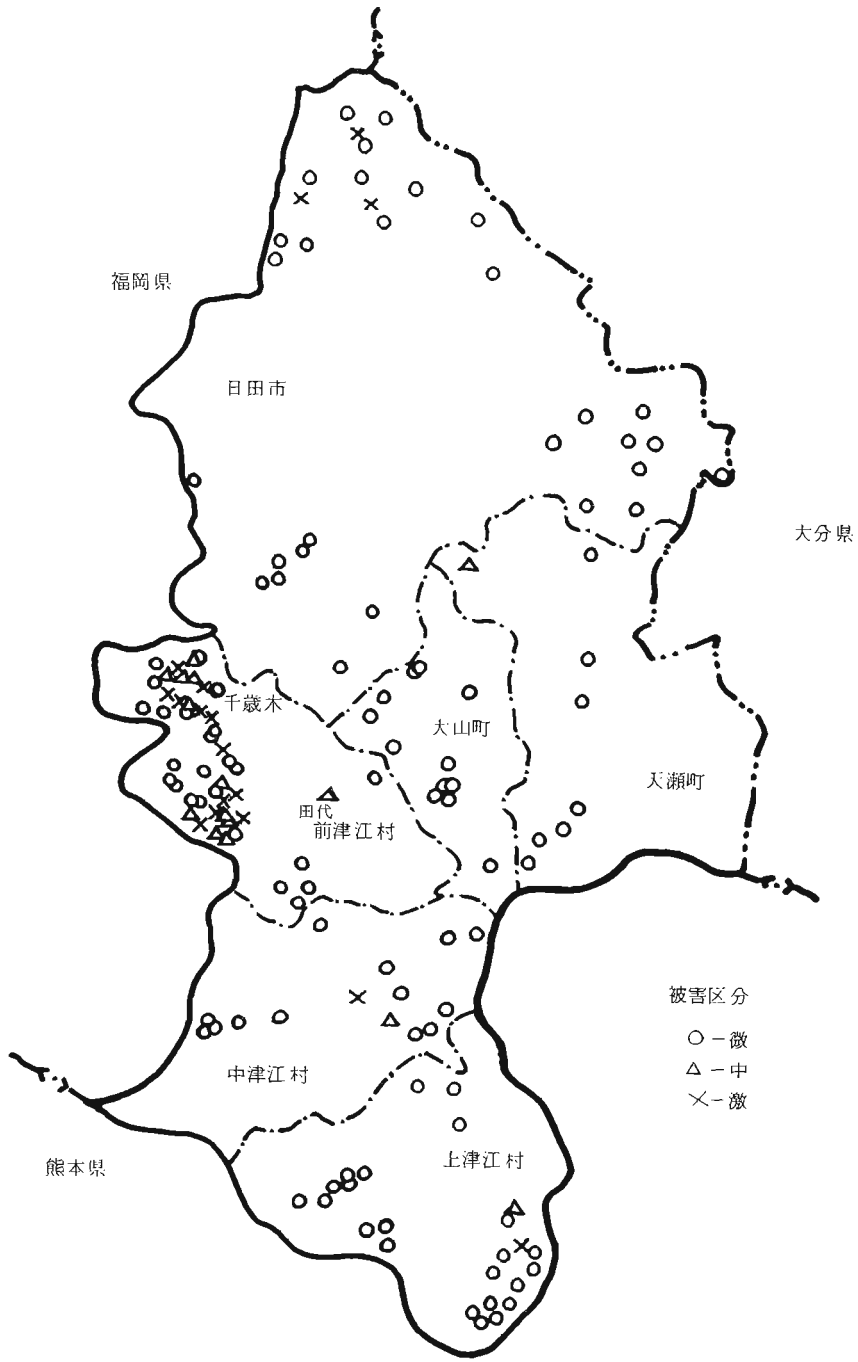


图-1 被害分布图